



5/30 大阪万博会場にて

チャンプニュースレター107号 目次

○山本代表のメッセージ		2
○アメリカよもやま話	山本儀子	3
○特集 チャンプ関東関西合同会&万博視察 報告		4
①山田伸代		5
②沖 正穂		6
③加納義久	④木下正二郎	7
⑤浅野 静	⑥安斉渥子	8
⑦岡田 優		9
⑧新堀ちや子		10
⑨藤原千恵	⑩木下義雄	11
⑪手島達夫	⑫山田信子	12
⑬辻 嘉和	⑭中林由行	13~14
○第2回「本音の会」報告	神田 順	15
○第277回英語の会 報告	高橋嗣雄	16
○活動会メモ 納涼会のお知らせ		16

山本代表のメッセージ



Dear CHAMP Members and Members to be :

短い梅雨と猛暑が続く毎日ですが、お元気にお過ごしでしょうか？

当メッセージを書いている7月中旬時点において、トランプ大統領仲介のイスラエルvsイランの＜全面的停戦＞が実現するのかどうか、依然として定かでないままです。イスラエルとイランの関係は宗教に限らず、長年の確執があり複雑な状況です。されど、どの国の市民にとっても、戦争による破壊は止まって欲しいことに変わりはありません。一体いつになったら、人間は殺戮を止めるのでしょうか。残念ながらロシアとウクライナの情勢も解決のメドが立たず、トランプ氏流の＜力による平和＞の前途は不透明で多難です。中国における習体制にも大きな変化が起こりそうな現状です。

さて本号はチャンプ「合同会」のニュースレター特集です！

5月29日（木）～30日（金）に開催された合同会は、関東から8名、関西から9名の17名が参加の1泊2日（合同懇親会と万博見学）の集いでした。当号には合同会参加者14名が寄稿して下さり、沢山の写真とレポートで、お読みになる皆様がその場にいらっしゃるよう感じられる内容となっています。編集の中林由行さん、ありがとうございます。第一日目5/29木曜日は関東組がひかり新幹線で12:57に新大阪に到着、御堂筋線地下鉄で難波駅に移動、関西チャンプ会員藤原千恵さんの出迎えを受けて、南海電鉄なんば駅で関西メンバーと合流、一路「天見駅」に向かいました。111年の歴史を誇る由緒ある木造建築の「南天苑」（1935年に移築）で、お庭の散策、温泉を楽しみ、18:00からの懇親会で交流しました。もともと家族向けの休憩所兼料亭であった南天苑のお料理を満喫しながら、参加者全員が自己紹介紹介と近況を話し、まさに楽しい集いの時間となりました。



南天苑外観



南天苑庭園 1



南天苑庭園 2



合同懇親会

二日目5/30金曜日は7:30朝食、＜いのち輝く未来社会のデザイン＞がテーマの大阪・関西2025万博見学に参りました。大きな荷物は会場内では預けられないため途中弁天町駅のかかなり不便な場所にある預り所に荷物を預けました。お聞き及びのように入場券などすべてデジタル申込み、会場内ではキャッシュレス、等々でしたが、入場は約40分で完了（小荷物検査時間を含み）全員無事入場しました。そこでまず「大屋根リング」をぐるりと一周り、約2キロとは言え、ゆっくり写真を撮りながら1時間半ほどの行程でした。バビリオン予約が唯一抽選で取れていた大阪ヘルスケアの「reborn生まれ変わる」体験は25年後の自分にも生成AIで会えて、興味深くとても見ごたえがありました。

万博跡地（正確には北側の45ha）に建設されるIR（統合型リゾート：カジノを含む国際会議場・展示場・ホテル・レストラン・ショッピングモール・エンターテインメント



大屋根リングにて



ウォーターショーの水面



サウジアラビア館にて

施設・サーキット場など）の2030年完成計画で様々な憶測を生んだ開発ですが、万博運営側の日々の経験値に基づくサービス改良で、予想以上に快適で楽しい万博見学となりました。

—お知らせ—

★9月24日（水）に関東「納涼・昼食会」を開催します（本号16ページをご参照下さい）。

関西例会は、9月18日（木）夕刻です（後日ご案内します）。

Best wishes, チャンプ代表 山本儀子Noriko Yamamoto

チャンプのHPIは、「チャンプの会」で検索して下さい。

チャンプのメールアドレス：info@champuniversal.com

世界的な熱波と不安定な気候が続いています。アメリカの独立記念日7月4日にテキサス州南西部の南北に流れるGuadalupe河の豪雨による洪水で100名を超える犠牲者が出ました。キャンプ中の27名の女児達を巻き込んだ氾濫です。

気候変動の影響に加えて、政府効率化省（Department of Government Efficiency）による気象局の大幅な職員カットの弊害も伝えられています。

<One Big Beautiful Bill 一つの大きな美しい法案>：

日本への新関税率として「25%」が8月1日から施行されるとの書簡がトランプ大統領から石破首相に届き、7月末まで交渉余地があるとは言え、相変わらずの米国主導の関税交渉が続いています。その間、同時進行していたトランプ大統領の肝入り税制法案「One Big Beautiful Bill：OB BB」が上院での修正後、7月3日に下院で215 vs 214という僅差で可決し、目下大きく注目されています。大統領職・上院・下院を制する共和党のトリプルレッド（赤は共和党のシンボルカラー）政権下での米国の財政政策が進行しています。

このOB BB 3兆8,000億ドル法案は、抜本的な減税、社会保障の縮小、3兆ドル以上の追加赤字歳出（国債発行）を含むものです。潜在的な勝者は、防衛・サイバーセキュリティ・一部の一般消費財が挙げられ、残業やチップに対する減税はサービスセクターの消費を支援すると言われます。潜在的な敗者は、再生可能エネルギー・EV・ヘルスケア分野です。クリーンエネルギー税額控除が廃止となり、低所得者の医療保険が8,000億ドル削減されます。貿易赤字の大幅削減、国内生産&雇用拡大を目指すトランプ政権の目標を後押しするのでしょうか。

<トランプ大統領の支持率>

政治ニュース・世論調査データ収集サイトとして多くのメディアが信頼するRealClearPoliticsによると、トランプ政権の支持・不支持は拮抗しています。

		承認する	承認しない
大統領としての職務評価	6/11~7/02付	46.6%	49.9%
経済政策	5/28~6/30付	42.5%	55.1%
外交政策	4/28~6/25付	42.3%	53.4%
移民対策	5/28~6/30付	47.3%	50.1%
インフレ対策	5/28~6/30付	39.7%	59.2%
イスラエル・ハマス闘争	2/03~6/09付	41.0%	48.4%
国の方向	5/30~6/30付	42.8%	53.3%

7月5日土曜日にイーロン・マスク氏が、「アメリカ党」という第3の政党を結成すると発表しました。この行方は非常に興味深いです。

特集 関東関西合同会&万博視察 報告

14年振りにチャンプ関東と関西の合同イベントが「合同懇親会&関西万博視察」という形で実現しました。

期日 : 5月29日(木)~30日(金) 宿泊 : 南天苑(大阪府河内長野市天見158)

参加者 : 関東組 ①安斉渥子 ②木下義雄 ③新堀ちや子 ④手島達夫 ⑤中林由行 ⑥山田信子
⑦山田伸代 ⑧山本儀子
関西組 ①浅野 静 ②岡田 優 ③沖 正穂 ④加納義久 ⑤北沢一記 ⑥木下正二郎
⑦辻 嘉和 ⑧藤原千恵

実行程 :

29日 関東組の多くは同じ新幹線で大阪へ、南海電鉄難波駅で関西組の何人かと合流、天見駅下車、徒歩3分で「南天苑」、15時頃にチェックイン、その他のメンバーも15時頃にチェックイン、17:30まで庭園散策・温泉入浴など。18時~20時半まで大広間で会席料理を賞味しながら17人で合同懇親会(関東の湯浅信吾会員の奥さんの敦子さんが河内長野市在住で懇親会にゲスト参加してくれました)、閉会後は各部屋で二次懇親会など。

30日 7:30に朝食、8:30天見駅発の電車に乗り、難波駅から地下鉄御堂筋線・中央線乗り継いで夢洲駅到着。徒歩5分ですでに多くの人が列をなしていたが並んで手荷物検査を受けて約40分で入場できた。入場してすぐに全員の記念写真を撮り、まず大屋根リングを歩きながら全貌を見ることにした。その後は団体行動は難しいので一旦自由行動とし、予約の取れている「大阪ヘルスケアパビリオン」前に16時に再集合した。一緒に大阪パビリオンに入場し、約1時間AIが描く25年後の自分像を見せられて楽しんだ。その後解散し帰京する人、奈良に向かう人などは退場し、夜まで視察する人は残るなどした。(詳しくは次ページからの寄稿を参照)。天候が心配されたが薄曇りでそれほど暑くもなく、混雑度も予想より低かったので恵まれた一日でした。。



南天苑での合同懇親会



万博会場俯瞰1



万博会場俯瞰2



大屋根リング内部

■参加できて本当に良かった合同会と万博 山田 伸代



合同会で、関東・関西CHAMPのみなさまとお会いして、とても心がなごむ喜びを感じました。そして、万博の楽しさを満喫し、出発前の体力の心配はふっとびました。山本儀子代表の一方ならぬご準備により大変お世話になり、ありがとうございました。参加できて本当によかったです！

●5月29日(木) 関西・関東合同会 (於) 大阪府河内長野市天見 老舗温泉旅館「南天苑」お庭の自然を味わいながらゆっくりと散歩し、温泉につかり、一流板前さんのお料理の品々を味わい(+日本酒)、落ち着いたお部屋を満喫しました。関西メンバーの藤原千恵さん、この温泉を見つけてくださりありがとうございます。玄関先で私たちを出迎えてくれたびくともしない黒猫ちゃんが印象的でしたね。



南天苑黒猫ちゃん



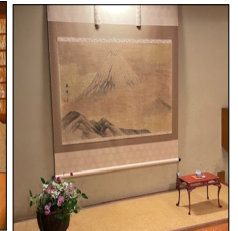
南天苑庭園にて1



庭園にて2



客室にて



由緒ある掛け軸

●5月30日(金) 関西万博” EXPO2025 : Where fun exceeds your imagination”

事前予約がとれたカナダ館、当日その場で入館できたブラジル館、当日予約で運よく入館できた、シグネチャー・ゾーンのnull2の3つのパビリオンを観ることができました。敷地全体が大屋根リングに囲まれており(素晴らしい)、目を引くデザインのパビリオンの数々。万博テーマ「いのち輝く未来社会のデザイン」を感じながら敷地内を歩きました。パビリオンの中に入ると、デジタルを駆使した建築空間があり、予想外の楽しさを味わいました。暗闇に浮かび上がる氷の山々。タブレットをかざすと、カナダの風景(トロントの街、ナイアガラ瀑布、オーロラなどの自然)が写しだされる。宇宙からみた青い地球がリアル感あり。



カナダ館



カナダ館ロゴマーク



カナダ館氷の山々



タブレットにカナダの自然



トロントの街



ナイアガラの滝



オーロラ

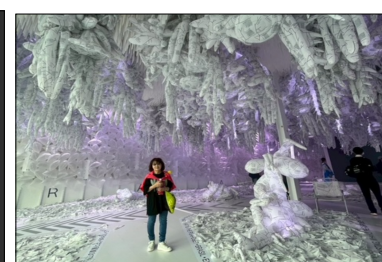


宇宙から見る地球

●ブラジル館 テーマ「われわれの存在・空気」をデジタル化し、幻想的な空間を体感しました。



ブラジル館 我々の存在・空気1



我々の存在・空気2



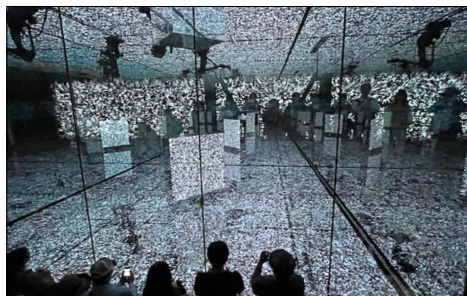
我々の存在・空気3

●シグネチャー・ゾーン：null2（「ヌルヌル」「空²」落合陽一さんのSignature

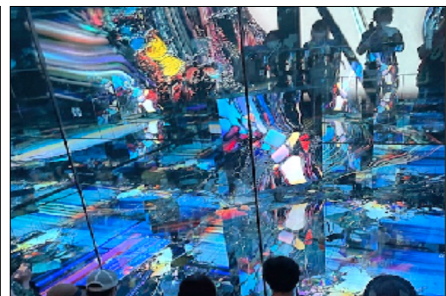
テーマは、「いのちを磨く」(Forging Lives)。落合氏は「未来社会のあり方に一石を投じる社会彫刻であり、変革装置である」と述べている。外観は輝く四角い構造物を重ねた感じ。外壁はやわらかい膜で、ズンズンと響く音に合わせて振動。昼と夜とでは様相が異なる。すり鉢状にくぼんだ窓に映像モニターが埋め込まれている。中に入ると、AI作曲の大音響の中、デジタル映像のシャワーがマルチ・ディメンション空間に映し出される。バーチャルとリアル境界が溶け、シームレスに融合する世界の中にいることを体感。



ヌルヌルバピリオン外観



大音響デジタル融合開始前



大音響・映像デジタル融合

null2の意味を調べてみました。

落合氏の宗教観・哲学感では、null2の意味を「空²」とし、「何もないところ（null）からあらゆるものが生まれ、あらゆるものは何もないところ（null）に帰っていく」と述べており、この「ヌル」が万物の根源であり、帰結点であることを示しているとする（途中省略）。幼いころ父親に必読と言われたニーチェの哲学書をよみ、日本の仏教「空（即色式即是空）空」を引用している。「null²」の解説関連記事は以下のURLをご参照ください。

<https://note.com/ochyai/n/nb5964e72debc>

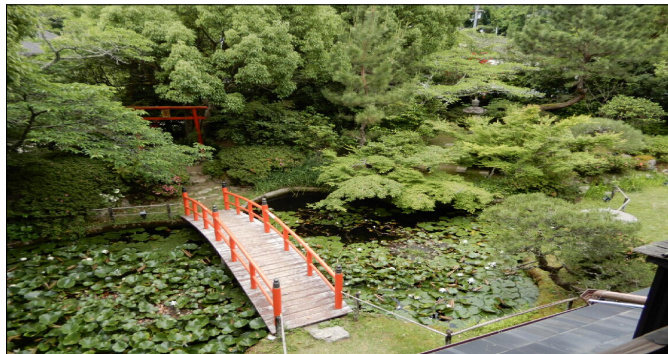
●チャンスがあれば、また「ミャクミャク」に会いにいてみたいと思っています。

■合同懇親会に参加して 沖 正穂

こんにちは 関西チャンプ会員の沖正穂と申します。今回、河内長野市の天見温泉南天苑での関東関西合同懇親会に参加させて頂きました 南海電鉄難波駅集合では40数年前高野山宿坊西南院の庫裏や茶室等建築に携わって一年余り利用した駅で、あまりの変わり様に懐かしく戸惑いました。天見温泉南天苑では一階のお部屋名「泉灘」で周り縁側が施された数寄屋風の部屋で、太鼓橋が架かった池庭園が見える落ち着いたお部屋でした 又ルームサービスで地元の女子生徒のお茶菓子のお運び、都会では考えられない田舎ならではの行為に感謝です お庭を散策し、温泉に漬り三年ぶりに母の介護から解放されてゆったりと過ごせました。懇親会は、一階の広間において開催されました。ライトアップされた回遊式日本庭園が幽玄な風情を醸し出していました。会長の山本様による御挨拶からはじまり、世界情勢についての説明、各参加者の自己紹介、関東や関西でご活躍されている諸先輩方のお話を拝聴することができました。非常に有意義な時間を過ごさせていただき、誠にありがとうございました。会席料理も大変美味しく頂き大満足でした 二次会は「泉灘」で、ワインや地酒おつまみなど頂きながら、山本様はじめ皆様のお話に花が咲き瞬く間にお開きの時間となり、床に就きました。翌朝早くから又温泉に身体を任せ、一人入浴場を貸切にしてしまいました。二日酔も綺麗サッパリ心身共に清々しく、火照った体を扇風機で冷やしたら、元気が出てきて今日も一日感謝です。朝食も普段ではあり得ない程の料理でした。食後万博観覧組と一緒に天見駅まで来たら小学生の登校時間なのか電車から降りてく児童を地元の人たちや駐在さんが迎えて挨拶をしている光景は尚一層心が癒されて今回参加させて頂いたご褒美を貰った気になりました。ありがとうございました。



南天苑正面外観



南天苑庭園

■南天苑——時と自然に包まれる、静けさの宿

加納 義久

大阪・関西万博を機に、関西でのCHAMP合同会が前回の有馬温泉から14年ぶりに開催されました。今回、宿泊と懇親会の会場として選ばれたのが南天苑です。温泉があること、万博会場にもアクセスしやすいことが選定理由でした。

大阪・難波から南海電車で揺られて約40分。終点近く、無人駅とは思えない整った佇まいの天見駅に降り立つと、そこはもう別世界です。改札を出てわずか1分足らずで南天苑の玄関に至ります。深い山に囲まれ、民家ひとつ見えないその静寂は、都会では決して味わえない「本当の静けさ」と言えるでしょう。

この地に南天苑の本館が移築されたのは、今から約90年前のことです。もともとは1913年、堺の大浜公園に建てられた「潮湯家族湯」の別館でした。辰野金吾設計とされるこの建物は、1935年、南海電鉄による温泉地開発構想のもと、自然豊かな天見温泉へと移築されました。その後の戦争や時代の変化を経て、1949年に「南天苑」として新たな歴史を歩み始めました。

溪流の音が聞こえる山あい、南天苑はまるで初めからそこに建てられていたかのように、自然と見事に調和しています。浴室からは大きな窓越しに溪流と山々の緑が広がり、屋内にしながらもまるで露天風呂に浸かっているような感覚を味わえます。

客室は数寄屋造りの趣にあふれ、障子には小枝があしらわれ、欄間には竹や蔓などが巧みに組まれています。部屋ごとに異なる設えがなされており、訪れた人の目と心を静かに楽しませてくれます。床の間には玉堂の山水画がさりげなく飾られ、宿の美意識とおもてなしの心が細部にまで行き届いていることを感じさせます。

そんな南天苑を、今回はCHAMPメンバーで貸し切り、自然あふれる庭園を散策したり、温泉でくつろいだりしながら、夕暮れの庭を眺めつつ懇親を深めました。その後の自由交流の時間も含め、心豊かなひとときを過ごすことができました。2003年には建物が国の登録有形文化財に指定され、辰野金吾による設計であることも正式に認められました。東京駅や奈良ホテルと並び、数少ない辰野の和風建築として、今も旅館業を営みながら日本建築の粋を後世へ伝え続けています。

翌日の万博は雨が心配されましたが、幸いにも爽やかな好天に恵まれました。全員で出発し、大屋根リングでは花と緑が波打つような遊歩道を歩き、眼下には色とりどりのパビリオンが所狭しと並び会場が広がっていました。ウォータープラザでは噴水ショーを楽しんでいる間にメンバーが思い思いに散策を始め、自然と別行動となっていました。

午後には、全員で予約していた大阪ヘルスケアパビリオンに再集合し、揃って入場することができました。各自がそれぞれに楽しんだ万博体験の締めくくりとして、有意義な時間となりました。



■交流を楽しみ、万博にもまた行きたい

木下 正二郎

久しぶりの合同例会と万博見聞+大阪の温泉で質の良い所に泊まりたい。万博へのアクセスも良い所等、盛り沢山の希望で、辰野金吾の設計、移築で川、池庭園のある天見温泉、南天苑となりました。合同例会宴会は時間の制約もなく皆様のお話も楽しく聞かせていただきました。しかしながら夕食前の4人相部屋の座卓を囲んでの語らいや風呂は大変心地よいものでした。2次会も遅くまで楽しみました。ちなみに古き良き物を残していることに価値を見出すのは日本人よりも、外国人の様に8割以上だそうです。

万博は大きく広すぎて各自バラバラでしたが大阪ヘルスケア館は予約が取れていたため25年後の（105歳）自分が見れる企画が面白かったです。私は家内と孫と夜9時30分まで色々回って歩きすぎたので2日ほどクタクタでした。あと、何回かは観に行ってみようと思います。皆様お疲れ様でした。（注：木下さんは関西支部長）



■合同会での回想のひとつ 浅野 静

合同会会場になった温泉旅館く南天苑>に、まずは感激である。南海高野線 天見駅、大正時代の趣を残した無人駅で下車。その駅前にして山に抱かれ、音のない空気に包まれて木造数寄屋造りの南天苑がある。大正浪漫の駅舎と調和のとれた佇まいである。国の登録有形文化財に指定を受け、幾度の改修を重ねながらの維持、管理に努力を続けている様が、今尚、現役で営業されている証であることが容易に受けとめられた。日本の代表する東京駅や奈良ホテルの設計で知られる辰野金吾の作品である。彼の設計当時のレトロな建築空間にいることに人知れぬ喜びがありました。その空間にマッチしている平均年齢（笑）と美味しさを隠せない食事は合同例会の思い出とともに印象に残るものでした。

関東チャンプの会の諸先輩との合同例会／懇親会には初めて参加させて頂きました。先輩方の博識あるトークに感銘するばかりでした。年齢を重ねると過去の思い出話になりがちですが、諸先輩方のトークには未来形があり、多くの高揚モチベーションを頂戴し、健康を考える加齢人には現役を続ける良きビタミン剤になりました。

山本代表とは今年で47年目。人生の大半に多くのご指導を頂き今日の浅野があります。関西メンバーの多くも何らかの病気、怪我を抱え克服して今日に至っているようです。この素晴らしいメンバーで構成されているチャンプの会が末永く続けられるようにご自愛下さい。

翌朝、55年振りの大阪関西万博へ繰り出した諸先輩方の行動に敬服します。



南天苑外観



南天苑ラウンジで浅野氏

■万博は楽しめたが、高齢者に配慮がほしい 安斉 渥子

私にとって大阪はあくまでも通過地点で降り立って街を歩いた記憶はないのだ。

その大阪で万博が開催すると知った時、この機会を逃せば訪れるチャンスはないのではと思っていた。チャンプの関東関西合同会で万博を訪れると聞いたときはグッドチャンスと申し込んだ。予想はしていたが、入場券を入手するのもパビリオンの予約を取るのもすべてネットなので、チャンプメンバーの援助がなければ参加はかなわなかったと思う。事前に取り寄せたパンフレットを見てみると、訪れたいパビリオンやイベント、食べてみたいフード等色々紹介されている。ところが詳細はQRコードへ、QRコードに入ると



URLへと導かれ、細かい文字をルーペで追っているうちに気力が削がれて行き、最後にはどうでもよくなってしまった！ 時代の進歩に付いて行くのは大変だ！！万博には多大な期待はせず、会場全体の施設を見渡しその雰囲気を楽しめたら満足しようと結論に達した。

雨予報だった当日は、晴れ女たちの祈念が届いたのか、一日中傘もささずに歩きまわることが出来てラッキーだった！入館後自由行動になり、5、6人のメンバーと大屋根リングに上がり一周2キロを歩きながらリング内の各国のパビリオンを眺め、リング外に広がる大阪湾から遠く明石海峡までの景色を堪能した。リングから降りたら丁度昼時、飲食できるパビリオンは長蛇の列！ やっと探した出店で買ったおにぎりが一個600円！ 財政難の万博への寄付と思い納得した。その後比較的並んでいる列の短いサウジアラビア館に入った。私の個人的な印象は、砂漠の国でも先端技術では欧米の先進国には劣らないと自国をアピールしている展示が多く、イスラムの伝統や文化の紹介が少なく残念だった。

予約の取れていた「大阪ヘルスケア パビリオン」は予想よりはるかにおもしろかった。鏡の前に立ち質問に答えていくだけで身体の部分ごとに現在の状況をA～Eのランクで評価してくれる。私の頭脳がDランクと出た時は焦ったが、

質問の一つの数字の引き算を足し算で答えてしまったのに気づき胸を撫で下ろした。25年後の自分の映像を見て、このようなお婆さんは25年後の世には存在しないと確信し安堵した。

そのあと奈良に移動するので夜までいられなかったが、万博はそれなりに楽しめたと思う。短い滞在を通して感じたことは、年配者への配慮があればもっと入場者が増えるのではないかなと思う。疲れても腰を降ろす椅子がない！コーヒープレークをするところもない、... 体力ある年配者でもネットが出来なければ入場すらできないのだ。！もう一つ、未来を生きる子供たちに是非行ってほしい。大阪府の学校に無料招待を送る計画があると聞いているが、付き添う先生の負担が大きく辞退している学校があると聞く。ボランティア活動等で同行できる大学生は沢山いると思うのだが、... ！？



ヘルスケアパビリオン内部



ヘルスケアパビリオン前で

■大屋根リングのウォーキングが最高・再訪しました 岡田 優

2025年春 CHAMP合同例会 in 大阪は、5月29、30の両日で本部の企画、実施運営により、行われました。今回、私は連絡担当の役割もなくお任せ状態で気楽に参加させて頂きました。関西に住んでいても会場の天見温泉、南天苑はあの辰野金吾設計とのことでしたが初めて聞くところで、興味津々でした。金剛山系の山懐、南海高野線の天見の無人駅を降りると目の前に佇んでいて館も大きくお庭も広大で、管理運営がこりゃあ大変だろうな、というのが第一印象です。昔は大阪の奥座敷的に社交の場として大いに活用されていたのだらうと推測されました。到着して予定の時間まで暫らくの時間があり久しぶりにゆっくり温泉に浸かって、会場の食事処へ集合です。例会としては、「アメリカよもやま話」はトランプ政権の動きは日本でもいろいろと報道されている通りですが、本当のところ何をどうしてゆこうとしているのかよくわからない状況が続いていて、軽々に先の見通しも利かず、それよりも、CHAMPをどのようにして、若い世代（50、60歳代？）承継してゆくのが、喫緊の課題であるとの山本代表のお話だったように思います。そして、東京（圏？）組と関西組と丁度同程度の人数でしたので食事をとりながら、交互に自己紹介と近況の報告をし合い、初めて親しくお話する方もあり、CHAMP構成員の皆様のリアルが分かってきたように感じました。2日目の「EXPO2025大阪・関西」へ向けて、スケジュールの確認と、次回秋のCHAMP関西支部の日取りを9月18日（木）大阪にてと仮決めして、明日もあることなので解散となりました。飲み足りない人、話し足りない人もあるようなので、あとは部屋飲みに移行となりました。私は、このところの体調から、アルコールは控えているのですが、図々しくも部屋飲みの輪に入れてさせて頂いた次第です。



この二日間、天気予報では雨模様が心配され、2日目の万博行がどうなることかと心配されましたが、どうやら東京からお出での晴れ女お二人のパワーで雨雲は退散し、丁度良い薄曇りの、暑くもない快適な万博日和となり、目標の大屋根リングをフルに一周することは達成できました。同行頂いたお姉さま方の健脚ぶりには圧倒されました。それにしても、大屋根リングのウォーキングが、植えられた草花の上を行く風も気持ちよく、万博の中で一番快適な所に感じられました。他の行動をとられた方々は如何でしたか。又、団体で入られた皆さん、「大阪ヘルスケアパビリオン」は如何だったのでしょうか。

私は、申し込みが遅れてメンバーには入れなかったのですが、代わりに皆さんとお別れしお先に自由入館部分に入り、IPS細胞から生成した心筋を見学（心筋を痛めている私としては感無量）して、夕方のリング内へ一人抜け出し、各パビリオンの夜景を堪能し、 commons など自由入館できるパビリオンを見学しつつ、7時半から始まるウォータープラザでのスプラッシュスペクトラムショーを待って8時半に会場を後にし、京都へ帰宅しました。

東ゲートから家まで、1時間と少々で行き来できることが分かったのも収穫でした。1日ではなかなか思うようには万

博を味わえないことも分かったので、通期パスを手に入れて、ウォーキングがてらちょくちょく通おうかと考えています。この原稿を書いている6月30日ですが、先日2回目の万博行を決行し、ブルーオーシャンドームと飯田グループ×大阪公立大学共同出展館を観てきました。来週は日本館パビリオンの抽選が当たったので、また出かけたいと考えています。



スイス館夜景



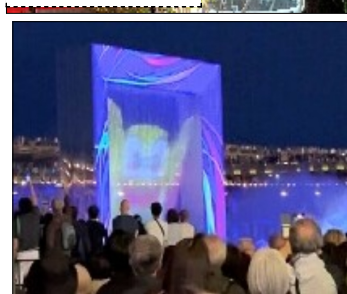
クウェート館夜景



コロンビア館夜景



湖上噴水ショー



湖上ショー2

■万博の土産話 新堀 ちや子

「万博に行ったんですって？ どうでしたか？」

とお土産話を催促されますが返事に戸惑い「うん、疲れたわね。混雑の中を歩き続けた感じね。ただ、大阪ヘルスケアパビリオンは予約が取れて入場できたので楽しかったわよ」と期待には遠い答えしかできない自分が少し情けなくなりました。でもただ一つ、私のスマホには25年後の私の姿が残されていました。ちょっと得意げに皆さんに披露して話題にしています。25年後まで生きていたら112歳の私ですから。当然信じられない思いと、こんな姿になってみたいと思う気持ちとがあります。



そして話題はやっぱり毎日健康で過ごしたいわね、と 長いこと楽しみにしてやっとたどり着いた万博でしたが今は自分の無計画さや事前の勉強不足が反省されます。でも現実はどこかのパビリオンも予約は取れず入場は無理でしたから全体に見える大屋根に登り上から会場の様子を見ました。雨予報でしたがまずまずの天気でもしる背中の荷物のせいか汗ばむ程でしたから上に登ると海風が心地よく、又まわりに植えられた草花が癒してくれました。草花はポットに植えられ大屋根の壁になる斜面に置かれていました。季節の草花がモザイク模様を描くように斜面をおいてありました。中には枯れている花もありましたが全体を管理し続ける事の大変さが伝わり裏方さんに感謝の気持ちが先立ちました。斜面になっているので上から水を流し下の溝で受けて水やりにも工夫がありました。でも、真夏の暑さや悪天候の対策や色取りよく配置する苦勞など管理者のご苦勞を思い頭が下がる思いでした。

会場内に目を移すと個性ある各国の建物が大ぜいの入場を待つ人たちに囲まれにぎわっています。あのパビリオンに入りたいと思って大屋根をかなり移動しないと下には行けず、たどり着いても行列の後に並ぶ勇氣もなくとうとう2キロの大屋根を一周しました。昼時になり食事を求めて歩き回りやっと見つけて並び手に入れましたがおむすびが1個600円と市価の3倍、私は肉うどんで空腹を満たしましたが満足の行くものではなくがっかりです。ソフトクリームが欲しいと探しましたが高値と行列を見て諦めました。予備知識があったら用意できたのにとまた反省でした。 と、土産話はこんなところで済ませました。



南天苑庭園にて



25年後の新堀ちや子像



25年後の山田信子像

■ ツナガリ——25年後の梅干の引換券を入手 藤原 千恵



関東・関西合同会に初めて参加しました。初めてお会いした方、じっくりお話をさせていただいた方、新たなツナガリができて嬉しかったです。庭園を散策したり美味しい料理を味わったりして同じ時間を共有でき、宿を提案した身として、皆さんに気に入っていただけたようでホッとしました。

万博では人が多く思うようには見られなかったですが、完全予約制にしてしまうと、予約したパビリオンを見終わったらと何処にも行けないことになり並んだら見られるということは必要なのかな、などと考えながら頑張って並びました。名前を知っているぐらいの遠い国を、わずか30分ほどで知ったことにはならないけれど、ツナガリのきっかけにできればと思います。ただ、万博が開催されている一方で紛争が絶えないことは残念です。夜に行なわれるドローンショーは素晴らしいけど、同じドローンが武器になっていることには悲しくなります。

シグネチャーパビリオンのひとつで、会場内で漬けた長期保存ができて2050年に食べられる梅干し「万博漬け」の引き換え券をもらいました。ヘルスケアパビリオンで出会った25年後の私、まさしく「梅干し婆さん」がその梅干しを食べられるように、健康に気を付けて生き、未来にツナガリたいと思っています。



■ 関西メンバーとの交流、25年後の自分に出会えて楽しめた 木下 義雄

・東京駅舎設計で有名な辰野金吾氏による建築の温泉旅館「南天苑」を出発し、やはり山本代表は「晴れ淑女」でした。万博会場は、暑くもなく寒くもない天候に恵まれ最高の見学日和でした。10時過ぎにゲートに到着し手荷物検査等で11時に入場、まずは木造大屋根リングに直行しそのスケールに圧倒される。

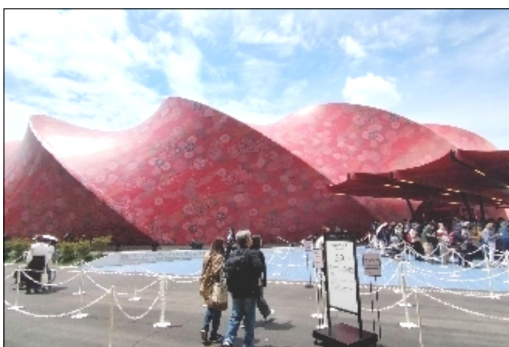
屋外エスカレーターでリングに上がり、周遊しながら会場全体の景色と雰囲気を感じる。これだけで万博見学の価値があった。とは言え、事前入館予約できていないパビリオンは建物の外観を見るだけなのでむなしい。

・当会で唯一予約して頂いた「大阪ヘルスケアパビリオン」で、25年後の自分映像で素敵な102歳の老人紳士に出会えたことに感動し、スマホにも録画できたことに満足する。期待していたドローンショーが21時開催と遅くなるので延長見学は断念。16時の集合時間までどのように過ごせば良いかと思っていたところ、中林さんの事前リサーチによるナビ同行できたおかげで、予約しないで入れるパビリオンの効率的な選択見学が出来た。西陣織館では飯田Gと大阪公立大学合同による未来社会展示、空飛ぶクルマ館、世界の小各国合同展示館の見学で世界旅行した気分を味わう。・途中での昼食は、比較的空いているとは言え30分以上は並んで入ったレストランでは、さほど旨くないチャーハンと生ビールで2,500円、これなら事前にコンビニ弁当でも購入しておけばとも思った。

・ゲート会場を18時頃に退出し、次の予約宿泊先の奈良市駅付近のホテルに向かう。

・次の日の午前中は、奈良公園の鹿を見ながら東大寺大仏殿等を見学、午後は1年ぶりの私の父母の墓参り（四条畷市の霊園）して、埼玉入間市の自宅に20時に帰宅。

・同室となった関西メンバーの浅野さんと岡田さん、会場見学で中林さんと同行頂いた加納さんを始め、関西の皆様とも親しくさせて頂きありがとうございました。次回お会いできることを楽しみにしております。



飯田グループ館西陣織の膜屋根



空飛ぶ車の展示



パキスタンの岩塩床タイル

■43年振りの大阪駅前の現状と万博 手島 達夫

43年前、私は転勤で大阪駅の南側の再開発ビルに勤務していました。

今回皆様より1時間前に大阪に行きあの大阪駅の北側の巨大な操車場がどのように変化したのか見たかったのです。40年ですからそれは大変化で、大きな緑の広場もあって周辺は巨大ビル群に囲まれて



ていました。1週間前に「東京建築祭」があり、新橋から上野まで歩き、泰明小学校を始め日本橋周辺の再開発ビル群等を見、こんな事務所ビルが大量に出来て、昼間の人口に匹敵する夜のどんな繁華街が出来るのだろうかと考えましたが、今回の大阪梅田駅北側の再開発には、何か温かい雰囲気があり、やがて何か関西の皆さんの印象深い文化が生まれそうな印象を受けました。

関西大阪万博の印象は皆様に譲るものの、ルーマニアのコーナーで、控えめな今の苦しい現状が切々に訴えている展示には、他の展示には見られない心揺さぶられるものを見せつけられました。



■いにしへの奈良を訪ねて 山田 信子

関西チャンプとの合同会、万博見学のことを書くようにとの仰せですが、大勢の方が書くのですから、私と同じ思いをお書きになる方もおいででしょう。そこで私は、その後に私的に訪れた奈良のことを書いてみます。

ずいぶん昔、チャンプで熊野古道を歩いたことがありましたね、実はあの時ももう一泊して、安斉渥子さん、中村峯子さんと3人で、奈良の、あの時は飛鳥に脚を伸ばしたのです。橿原神宮から始まって当時話題になっていた高松塚古墳、石舞台、飛鳥寺等を歩き、最後に甘樫丘から下に広がる緑を眺めて、いにしへの藤原京を心に思い描いたものです。

そこで今回は、藤原京の次に都（天皇の住まう所）となった平城京跡を観ることにしました。京都に平安京ができるまで、奈良の平城京は74年間、仏教文化を軸とした日本の都として栄えたのです。

今回のメンバーは前回の安斉渥子さんと私に、山本儀子さん、新堀ちや子さんが加わりました。しかもありがたい！新堀さんのご次男が奈良在住で、平城京跡というただっ広い地を車でご案内くださったのです。その時代のものは何も残っていないこの地ですが、近年開発工事の際に見つかった遺跡からその全体像が分かってきて、まさにその時代にあったままの場所に、朱雀門、大極殿、客をもてなした東院庭園等が復元されています。唐から仏教初め多くを運んだ遣唐使船まで再現されています。その場に立てば後は唯々、想像の世界です。私には朱雀門から大極殿へ一直線に一キロも続く長い朱雀大路を、唐の官吏や朝鮮の人々が肅々と進む姿が、目に浮かぶようでした。

この想像の世界を訪れる前に、せっかく奈良にきたのだからと、早朝の東大寺を訪れたのもよい思い出です。大仏殿の木組みの技術が、13世紀も後の万国博覧会で、大屋根リングとなって人々の喝采を浴びるとは、当時の棟梁は考えてもいなかったでしょう。

いつの時代も人は大きな物に憧れ、天（空）に憧れ、それを得ようと技を磨いて進歩する。これから地球は、私たちの見ることのできない地球は、どうなっていくのか。見ることはできなくても、想像することはできる。25年先、万年先、億年先・・・ 遠い遠い未来へ想像のひろがる、心ひろがる、今回の関西遠征でした！



東大寺二月堂前



平城京東院庭園にて



大極伝殿を背に

■合同会と今後のチャンプについて 辻 嘉和

私は合同会の翌日は所用があり、皆さんお目当ての万博会場には一緒できませんでしたので、南天苑の合同会に関連して感想文を記したいと思います。私は今までの合同会に限らず、東京の方々との交流に努めてきたつもりです。数年前までは東京の集まりには、「山登りの会」や「温泉を楽しむ会」、「海外視察の会」など楽しい交流と勉強会を兼ねた会があり、関西から私や家内がよく参加させていただきました。久しぶりの今回の合同交流会も懐かしい人にお会いできてうれしく思った次第です。それにしても、いつもこのような集まりには必ずお目にかかる人が少なくなったことに一抹の寂しさを感じた次第です。CHAMPのメンバーの高齢化に伴い、これまでの活動は確かに以前のように機能しませんので、新しいメンバーの勧誘や若いメンバーの参加が望まれるのは必然です。しかし、今までにいくつかの案が出されていますが、決め手に欠けるようです。今の時代、60～70歳でも仕事を続ける人が多く、仕事を離れて趣味や人との交流に関心と時間を割くような人は少なくなっています。現に巷の文化サークルや趣味の教室は人が集まらず、閉鎖しているところが多くなっています。しかし反面、このような風潮の中でも人間的繋がりを切に求めているようにも思います。それには難しく考えるより、人の集まりの楽しさに何があるか、例えば “ハンガリービールを囲む会” “淡路の鰻を食す会” といった会を設け、CHAMPメンバーの知り合いに参加の声をかけてもらえば、何人かは参加してくれると思います。そうして人が集まった時点でCHAMPの将来を投げかければよいと思います。忙しく、多くの知識を学ばねばならない忙しい時代には素朴な人間の付き合いを求めているように思えてなりません。何か、締めりのない話になってしまいましたが私はCHAMPの継続にはそのようなことが一番大事なことで思えてなりません。



南天苑朝食風景

■合同会&万博特集 あとがき 中林由行

参加の多くの皆さんが寄稿をしてくださり特集号としてまとめることができ感謝です。私は（多くの関東メンバーも）関西万博は興味はあるものの宿をはじめいろいろ面倒そうなのでパスしようかと思っていたのですが、関西チャンプの方から「由緒ある良い宿が確保できた」という情報があり、それならという訳で参加に踏み切りました。準備をしてくれた関西メンバーに感謝です。今回の万博視察の感想としては、皆さんが書いているように、やはり現地でなければ見られない物、経験できないことが多く、誰かが「冥土の土産ができた！」と言ったのもむべなるかなでした。私は1日の昼間だけでしたがざっとしか見ることはできませんでしたし、ほとんどのパビリオンは抽選予約制ですから入れなかったのは残念でした。合同会の催行が決定した後、山本代表が率先してチャンプグループの抽選予約に取り組んでくれました。スマホアプリでやるこの申込はシニアにとってはわかりにくく難関なのですが代表が孤軍奮闘（皆がやれないので）で頑張ってくれたおかげで「大阪ヘルスケアパビリオン」に当選し、当日の視察のハイライトになりました。代表には大変なご苦労を書けましたが本当に感謝です。奥の手として入場後の「当日予約」というのがあるのですが我々には無理でした。山田伸代さんは娘さんという強い味方がいたので3つのパビリオンをこなせたとのこと、さすがです。私は建築設計が専門でしたので万博でしか見られない多くの変わった建築物は楽しめましたが、やはり圧巻は「大屋根」



ング」でしたね。下から見上げると上を歩いている人々が小さく見えて中国で見た万里の長城を思い出しました。この迫力ある木造万里の長城を取り壊すのはもったいない、これを骨組みとしてそのまま集合住宅にできないかと思ってしまいました。

貴重な数寄屋造りの由緒ある南天苑に泊まれたこと、関西メンバーとの交流ができたことは今回の大きな成果でした。以下はいくつかのパビリオンの写真です。



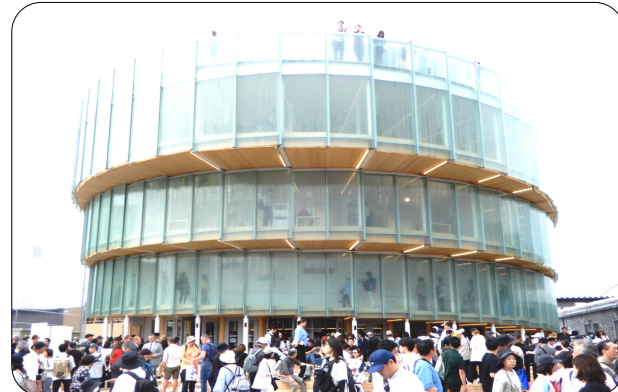
アイランド館



スイス館



クウェート館



チェコ館



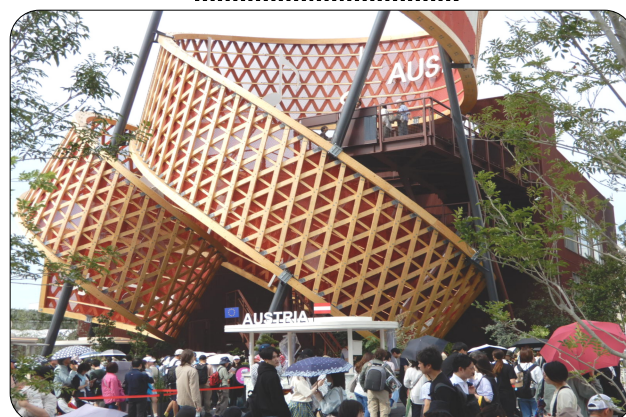
フィリピン館



フランス館



トルクメニスタン館



オーストリア館

第2回 「(新) 本音の会」 開催報告 神田 順

6月12日(木) 12時から14時まで、お茶の水のA-Forumをお借りして、復活第2回の「新・日本の現状を本音で語る会」を開催しました。復活第1回より2名多い11名に参加いただきました。

テーマは「内田祥哉(1925-2021)の遺した言葉『日本は鎖国した方がよいと思う』をどう考えるか」でした。話題提供は、直接にその言葉を聞いた國安珣子氏と内田研究室出身の中林由行氏から、今年が内田先生の生誕100年という思いも込めてお話をいただきました。

國安：建築研究所時代に大崎順彦(1921-1999)先生の助手を3年務めたが、その後も、雑誌編集に携わったこともあり、内田先生はじめ、清家清(1918-2005)先生など多くの大先生から「〇〇について調べてくれ」などと、電話をもらうことが少なくなかった。12月に電話を頂き、「今、日本は鎖国をした方がよいと思う」との言葉を最後に、お互い連絡を取らぬまま、先生は5月3日に亡くなられてしまい、ずっと気になっていた。2070年には日本の人口も6000万くらいになる。気候変動で人が動くと戦争が起きる。先生は部品化に取り組んでおられた一方で、木造建築についてテーマとしておられた。伝統木造建築は基本はレゴと同じ。自立した国になるという意味で鎖国と言われたと思う。

中林：日経アーキテクチャ(2021-6-24)の4ページの追悼記事とA4版1ページのメモをもとに、1. 江戸時代の鎖国、2. 現代の江戸的鎖国は可能か?、3. 内田先生の鎖国のイメージとはなにか、4. グローバル化による問題とはなにか、5. 住宅・建築・ライフスタイル的鎖国で何をめざすのか、6内田先生の研究・活動の背景と分析的に展開した。食糧自給100%、武器使用無しで300年鎖国した国は例を見ないが、今同じこと実現することは不可能である。輸入木材に頼ったグローバル化に対しての問題提起だったのであろう。ご自身は和住宅に住んだ。

江戸の鎖国が何故あれだけ厳しいものになったかについては、キリスト教布教の不安が江戸幕府に根本的にあったようである。今の世界をどう読むかということもある

が、トランプのやっていることもある意味、鎖国政策であるが、「鎖国」という言葉に捉われてはいけなかったという指摘がされた。例えば、国としての情報漏洩が気になるとか、そのためには、大学も政府のコントロール下に置く必要がでるとかの話も生まれる。さらには、日本人が、豊かになっても自虐的な体質をもっているとの指摘もあったが、このことは、政策に対して、どうせ変わりっこないと斜に構えている姿勢に通じるかも知れない。

鎖国という言葉よりは、自立という発言は多かった。その意味では、農のあり方が誰しも気になることであり、安易な大規模化ができる国土ではないこと、棚田の保全の過酷さなど、今こそ農政の変革の時期であるということについては、皆一致する思いであった。CHAMP会員の樋口功氏の十日町における地域支援事業の紹介もあった。過疎地域、農業地域を元気にするには何ができるか。日本の制度や基準、組織が、既得権でのみ動いていて劣化している。解体すべきは全農だけではない、検察も、輸出産業も、同じ問題を抱えている。

さらには、医療制度についても話題が及んだ。障害者認定と高額医療負担とのバランスが取れているのかという問題などは、人によっては極めて深刻。過疎地域医療の問題も同様に、制度、基準、体制が、格差を無くす方向に動いていない。改めて、自立という視点で考える必要がありそうだ。人に頼らずになど生きていけないが、年齢になって自立をどう考えるか、本音が愚痴でなく、どう生きるか(どう死ぬか)の議論にも近づいた。

今回は、9月11日(木) 12時から14時まで、A-Forumにて開催。テーマは、「ジェンダー・ギャップについて」。話題提供は、畑京子氏と手島達夫氏の予定。

写真下：向かって前列左から、畑京子、山田伸代、山本儀子、國安珣子、山田信子、後列左から、梅澤正巳、波田野治之、神田順、高橋嗣雄、手島達夫、中林由行



